

多様な人とかかわる中で、自他のよさを認め合い、協調して学び、新たな自分を発見できる子どもの育成

学校通信 ひがしやま 第26号	発行日 令和6年6月20日(木)
	発行者 別府市立東山幼稚園 別府市立東山小学校 別府市立東山中学校 校(園)長 谷川 芳明

○中高連絡会（別府鶴見丘高校）の開催について。

6月18日(火)開催されました。高校が中学校(校長や進路指導担当者等)に対して、学校の特色や生徒の状況等説明する機会です。

昨年度の九州大学合格者(県内進学校の一つの目安)は県立高校の中では2番目に多いこと。部活動加入率が80%(昨年度は80%超)。早期の進路意識(4月調査で1年生の13%が進学先未定)によって、磨きあい、力をつけさせていく。やり遂げることによって身に付く人間力、未来創造力の育成。また欠席が多くなった生徒・不登校傾向の生徒への組織的な対応についても説明がありました。

課題の一つは、入学時に学力差があること。特に英語を弱点とする生徒が多いのが現状と。習熟度別授業(2クラス→3クラス)を実施しているとのこと。

中学校教員から、鶴高に対して生徒の持つイメージは「学力が高い学校。課題(宿題)がとて多い学校」という発言に対して「どの学校と比べているかだが、本校の目的は大学進学」。

大学進学に必要な平日の家庭学習時間は2時間30分以上と定めているが、現時点で1年生は満たしていない状況。

別府西中と宗近中の卒業生2名(1年生)が入学後の感想を話してくれました。

①語彙力及び読解力が大切。中学校時には読書が大切。(今、苦勞しているの)

②学ぶことで進化し続けることができる。「一生ものの力」を身につけることができる。

★★

○第2回定例会（6月議会）開催について。

現在、県や市町村では定例会(議会)が開催されています。定例会は年4回(3月、6月、9月、12月)開催されるので、テレビや新聞でもご覧になったことがあると思います。

私は子どもたちに影響がある(ありそうな)答弁はとても気になります。記事のアウトラインを見ただけですが、例えば県立高校「全県一区制度」の検証や大分市が玖珠町の『学びの多様化学校(不登校特例校)』の調査研究を進めていることなど。

★★

○令和6年度別府市教育講演会の開催について。

今年度も別府市教育委員会主催で開催されます。

日時:令和6年8月5日(月)13:30~16:00 会場:別府市公会堂 大ホール

講師:小野章史 氏(川崎医療福祉大学名誉教授)演題:「からだと栄養~生活の中の栄養学」参加対象者は教職員、保護者、学校運営協議会委員等となっています。

希望される方は6月28日(金)までに本校教頭まで連絡願います。なお会場には収容人数がありますので、ご希望に添えない場合もあります。ご了承願います。